

教育 SNS Edmodo を使用した授業づくり 実践報告

ウッドウルジャロヴァー美希（マサリク大学）

miki@phil.muni.cz

【要約】

本稿は、教育ソーシャルネットワーキングサービス Edmodo を使用した教室外活動の実践報告である。授業外で日本語でコミュニケーションを取る機会が少ないという問題を解決するため、Edmodo を使用し、学習者がインタラクティブにつながることでできるオンライン学習環境をデザインした。実践を行った会話コースと口語表現コースでは共に学生の活発なやり取りが見られ、Edmodo の使用に対して学生から概ね高評価が得られた。

1. はじめに

情報通信技術が発達し、オンラインツールを言語教育に取り入れることは新しいことではなくなった。2000 年以降 Facebook などのソーシャルネットワークサービスが拡大に普及されると、それらを教室内外活動に使用した実践研究も多く発表されるようになった。ソーシャルネットワーク Bebo を使って日本語学習環境をデザインした Fukui と Kawaguchi (2018) は、Bebo 導入により友人の投稿を読んだり、投稿されたビデオやウェブサイトを見ることで学習者の教室外でのインプット量が増やせたこと、そして学習者同士がコメント機能を使ってやり取りをする「意味交渉の場」を提供することができたことを報告している。

本実践を行ったマサリク大学では Moodle の使用が全学部に推奨されていたが、日本学科は Moodle をはじめオンラインの学習環境をデザインするツールは使用してこなかった。授業外で日本語でコミュニケーションを取る機会が得られないという声が学生からあがっていたこともあり、今回学習者の日本語学習へのモチベーションを高めながら教室外でもインタラクティブな学習環境を提供するという課題に取り組むため、教育に特化したソーシャルネットワークサービス Edmodo を、『会話』と『口頭表現』の授業外活動に使用した。本稿では Edmodo を使用した活動内容を詳述し、その結果を考察する。

2. 実践背景

チェコ共和国マサリク大学では日本研究科は哲学部に属し、日本学専攻過程がある。日本学専攻課程は学士課程が 3 年制で修士課程は設けられておらず、卒業後は他大学の修士課程に進学するか就職する学生が多い。日本語関係の授業は、文法、読解、聴解、漢字、作文、会話とそれぞれスキル別に分けられており一週間に一回 90 分授業が約 12 週行われている。筆者は主に 2 年次と 3 年次の聴解と会話を担当している。正式なアンケートを行っていないが、学生と各授業の担当教師に授業活動の様子を聞いたところ、日本語の文法練習や翻訳、作文などでは日本語を使用するが、日本語でコミュ

コミュニケーションを取ることはほぼ皆無だということがわかった。つまり学生が日本語でコミュニケーションを取る機会は筆者が担当している授業だけで一週間に二日ということになる。さらに、マサリク大学には有志によって設立された学生サークル『コネクト』がある。『コネクト』は日本学科の学生と日本からの留学生が一週間に一度日本語と英語で交流するクラブだが、本実践を行った3年生はアルバイトや授業の都合で定期的に参加している学生はいなかった。

日本語でのコミュニケーションを取る機会を増やすためにまず教室内外の活動を見直し、インタラクティブの時間を増やしたいと考えた結果、改善の余地が二点浮かび上がった。一点目はクラスでディスカッションを行った後でも学生同士が意見を出せる場づくりである。以前にも会話の授業でディスカッションを行っていたが、話し合いを授業内で終わらせてしまい深い学びにつながっていないという課題があった。授業後も学習者がトピックについて学び自分の考えをまとめ他者に共有し、お互いにコメントできる機会を設けることで、学習者間のインタラクティブを増やせると考えた。二点目は学習者が自身の学びを共有できる活動の導入である。『口頭表現コース』では、従来日本語の話し言葉の特徴が見られる物（マンガのシーンや動画など）を自分の分析を加え教師に提出していたが、これでは学生と教師間のやり取りになっていた。これらを学習者同士が紹介しあうことで、インタラクティブを増やせるだけでなく、学習者がお互いに学び合うことにもつながると期待した。ただこの活動を授業内で行うとなると他の授業活動の時間を削らなくてはならない問題が出てくる。授業後も学びを継続し学習者が意見を交換でき、授業の時間を割くことなく学習内容を共有できる場をつくるために、Edmodoの使用を試みた。

3. ソーシャルネットワーキングサービス Edmodo の活用

3. 1 Edmodo

Edmodo は無料アカウントで使用できる教育活動に特化したソーシャルネットワーキングサービスであり、2020年9月の時点でユーザー数は1億人を超えている（Edmodo, 2020）。Edmodo 上でコースを作成するとそのコースにアクセスするためのコードが作られる。そのコードを受け取った学生のみコースに登録できるので、クローズド SNS と称される。Edmodo で使える機能は以下の通りである。

- 課題配布と提出
- 資料配布
- 投稿（文章、写真、ビデオコンテンツなど）
- 投稿へのコメント、および「いいね」機能
- アンケート（Poll）
- 小テスト
- 学生と教師間のプライベートメッセージ（学生間は不可）

機能やレイアウトは Facebook に似ていて、教師が投稿する告知や教材などは各自の Timeline 上に配信され、新しい投稿がされると古い投稿は下へと流れる仕組みになっている。課題配布は教師にしかできないが、Timeline 上への投稿は学生も自由にでき、コメント機能を使って教師と学生そして学生間でやり取りをすることが可能である。Edmodo はアプリも対応しているため、学生はパソコンだけでなくスマートフォンやタブレットから「いつでも、どこでも」アクセスできる。

3. 2 Edmodo を活用する意義

Edmodo もしくは SNS を使用した授業活動や e-learning の実践報告は日本語教育のみならず諸外国語の教育でも見られるが、多くの実践者は Edmodo を教室外のインタラクティブな学習環境を構築し、オンライン上の学習コミュニティを作りあげることができるツールだと結論づけている。Mills と Chandra (2011) は Edmodo は学生がよりインタラクティブにつながり、それがクラスの関係を上向きにさせることが可能だと述べ、学習者がつながり合うことで生まれる Edmodo での学習コミュニティは実践コミュニティ (Wenger, 2002) の一つと考察している。さらに Ma'azi と Janfeshan (2018) は Edmodo は教室外でも自律性のある学習を行う環境を提供するパワフルなツールになると述べている。授業内ではどうしても時間制限があり学生全員が思っていることを発言するのは難しい。特にディスカッションの場では、相手の言葉に早く反応し発言できる学習者の発話量が多くなり、考えをじっくりまとめてから話したい学習者はなかなか考えを言い出せない場合もある。Edmodo のようなソーシャルネットワークサービスでは、内向的な学習者も言語能力が低い学習者もやり取りの場に参加できる (Fukui & Kawaguchi, 2015)。授業が終わった後も考えや情報を共有することでより他者の考えや価値観に気づくことができ、結果それが深い学びと相互理解につながるとも考えられる。Fukui と Kawaguchi (2015) は学びは他者と交流することで起こる行為であり、自分と異なる意見や考えを持つ他者と影響しあいながら新しい理解ができる可能性を示した。

以上の点をふまえ、(1) オンラインでのインタラクティブな学習環境づくり、(2) 授業外での自律性のある学習促進、(3) 学習者が情報を発信する場所の提供、そして (4) やり取りを通して得られる相互理解の促進の 4 つを授業外活動に Edmodo を取り入れる目的とした。

4. 実践概要

4. 1 実践対象コース

本実践を行ったコースは、3 年次に開講される 4 つのコースで以下のとおりである。

(a) 会話 IV	3 年次前期 (2019 年 9 月～12 月)	履修者 7 名
(b) 口頭表現 I	3 年次前期 (2019 年 9 月～12 月)	履修者 6 名
(c) 会話 V	3 年次後期 (2020 年 2 月～5 月)	履修者 12 名
(d) 口頭表現 II	3 年次後期 (2020 年 2 月～5 月)	履修者 8 名

会話コースはプレゼンテーションや発表を中心にした授業でアカデミックな日本語に重点を置き、口頭表現コースは日本語の話し言葉に焦点を当てた授業である。全てのコースは週に一回 90 分授業で開講された。学生の母語はチェコ語もしくはスロバキア語で、両者はそれぞれの母語で話しても意思疎通が可能である。日本語レベルは中級の下～中だが、会話 V のコースだけ留学帰国者の 4 年生が 3 名履修しており、うち 1 名は日本語能力試験の N2 保持者だった。

4. 2 会話コースでの Edmodo の使用方法

会話 IV では、毎週担当の学生が自分で選択したテーマに基づきプレゼンテーションをし、翌週クラス全体でディスカッションを行った。授業後、ディスカッションで話し合った内容をもとに、最終的な自身の意見を含めたレポートを Edmodo に投稿してもらった。「課題提出」機能ではなく「投稿」機能を使用したためクラスメイトの意見を読んでコメントすることが可能であるが、クラスメイトへの

コメントは任意にした。会話 V はコロナウイルス感染拡大の影響によりオンラインで行われたため、会話 IV とは授業方法を少し変更した。会話 IV では学生がディスカッションのトピックを選び発表を行ったが、会話 V では教師がトピックを決めそれに関する読み物やビデオなどを Edmodo に投稿した。学生はビデオ会議を使用したオンライン授業前までに Edmodo に意見を投稿し、ディスカッション後のレポートはなしにした。クラスメイトへの投稿へのコメントは任意のままだった。

両コースとも教師からのフィードバックは二通りで、内容に関するフィードバックは Edmodo のコメント機能を使用して行った。文法の訂正など言語運用に関するフィードバックは、学生の投稿をコピーし Google ドキュメントにまとめ行った。これは、Edmodo 上ではインタラクティブな活動を目的としており、学生同士が気軽にコミュニケーションできるようにするためである。教師からの文法に関するフィードバックがコメント欄でされると、学生同士がコメントしづらくなるのではないかと考えこの方法を取った。

4. 3 口頭表現コースでの Edmodo の使用方法

口頭表現 I と II の両コースでは、日本語の話し言葉の特徴が見られるコンテンツを毎週 Edmodo に投稿することを宿題とした。投稿物は漫画のシーンの写真、YouTube などの動画、チャットやメッセージのスクリーンショット、広告の写真などから選び、どのような口頭表現が使われているか分析を交え投稿してもらった。学生同士のコメントは任意としたが、翌週の授業で宿題の投稿物について話し合うため、クラスメイトの投稿を読んでもらうことも課題とした。教師からのフィードバックはコメント機能を用いて行い、クラス全体で話し合いたい内容の物は授業時にも取り上げた。

5. 実践結果と考察

Edmodo での学生の活動と学期末に行ったアンケート結果をもとに、会話と口頭表現それぞれのコースにおける Edmodo を使用した活動内容を考察する。

まず会話コースだが、教室内でディスカッションを行ったあとでも Edmodo 上で学生間のやり取りが見られた。ここで特筆すべきはただクラスメイトの投稿に同調したコメントをしているのではなく、賛成・反対意見のいずれの場合でも自身の考えを記述してコメントしていた点である。クラスメイトの投稿へのコメントは任意だったが、授業後も活発に学生同士が意見交換を行っていた。また学習者が自身の意見を書いた投稿の中には、「〇〇さんの意見に賛成です」「〇〇さんの言うとおりのように他者の意見について言及しているものや、他者の意見が自分の考えにどう影響したかを記述しているものが多数見受けられた。さらに授業内のディスカッションの後に改めてトピックについて調べ、関連する記事や YouTube ビデオのリンクを貼り付けている学生も数人いた。

口頭表現コースでは、会話コースよりもより活発なやり取りがされていたが、これは活動内容の違いによるものだろう。マンガのシーンや歌などのコンテンツを共有しているため学生にとっては気軽にコメントしやすかったのだと考えられる。またコミュニケーションの方法にも会話コースとの違いが認められた。会話コースではディスカッションテーマに関するやり取りのため、学生は基本的に丁寧体で記述し、絵文字や顔文字もほとんど使用されていなかった。一方口頭表現コースではやり取りはカジュアル表現でされており、絵文字や顔文字も多く使用され、中にはスラングを使っている学生もいた。またコメント欄でも話し言葉の使い方や特徴について学習者同士が意見を交換していて、次週の授業で話し合って理解を深めたいものが自然と学習者間で共有されていた。

学期末に行ったアンケートに、会話Ⅳでは7人中6名、会話Ⅴは12人中9名、口頭表現Ⅰは6人中3名、そして口頭表現Ⅱは8人中6名が回答した。「クラスメイトとやり取りして学習のモチベーションがあがったか」という質問に対して、会話・口頭表現の両コースとも1人～2人は「どちらかと言えばそう思わない」と回答したが、8割の学生はモチベーションがあがったと回答している。また会話Ⅳでは全員が、会話Ⅴでは一人を除く学生が「Edmodo上で意見を共有することは有意義」だと答え、「他者の考えや価値観について考える機会が得られた」と回答した。他にも興味深いアンケート結果が会話ⅣとⅤで見られた。クラスメイトの投稿を読んで自分の意見を書きにくいと感じた学生は半数に及んでいたにも関わらず、Edmodoで自分の意見を共有するのが「どちらかというとなんか嫌だった」と答えた学生は1人だけだったという点である。これは自分の意見が少数派だった時などに書きにくいと感じたが、それでもクラスメイトと共有し、意見交換をすることが有意義だと感じたのではないかと考えられる。一方口頭表現コースでは、全員が自分の投稿がクラスメイトの日本語学習に貢献したと感じ、クラスメイトの投稿のおかげで話し言葉の知識が増えたと回答した。コメント欄でのやり取りを見ても、学習者同士楽しみながら学び合っていた様子が見えてきた。最後にアンケートに寄せられたコメントを紹介したい。

学生A：Edmodoはとても面白いアプリです！使いやすいと思います。

学生B：教師が、学生の答えやコメントに助けや意見を与えて、サポートした。

学生C：Edmodoを使うのは本当に楽しいと思います。まずは、便利です。なぜなら個々の宿題を先生にメールで送ることよりEdmodoでシェアした方がいいでしょう。そしてクラスメイトのポストを見てコメントすることができるんです。

Edmodoは使いやすく楽しいという意見が出ているが、これはEdmodoがFacebookと機能が似ているためデジタル世代の学生には容易に使いこなせるからだろう。また好きな時間と場所で気軽にコンテンツを投稿したり、クラスメイトにコメントを書き込んだりできることは授業外で日本語を使うハードルを下げていると考えられる。またEdmodoで意見や学習内容をシェアしクラスメイトにコメントできることが有意義だと捉えていたり、自分の投稿がクラスメイトの学習に貢献していると感じたりしていることから、授業外でもEdmodo上で共に学んでいるという意識が見受けられる。これはまさしくオンラインでの学習コミュニティが形成されたと言えるだろう。それに加えて、会話コースでトピックに関連した記事や動画を共有していた学生がいたが、授業後に調べてクラスメイトに共有するのは課題ではなかったため、これは学生が知的好奇心のため自主的に調べ、それをクラス全体で共有したいと思った結果の行為と考えられる。Ma'aziとJanfeshan(2018)が指摘したように、Edmodoでは授業外での自律的な学習を促し、学びが授業内だけで完結せず授業後も継続する効果があることがわかる。

以上の学生の活動内容の分析とアンケート結果から、学習者はEdmodoで授業外でも日本語でコミュニケーションを取ただけでなく、自律的に授業後の学びを継続し、インタラクションを通して他者との相互理解を深めることができたと言えるだろう。

6. 今後の課題と展望

Edmodoの導入により学生間の活発なインタラクションが生まれ、授業外でも自主的な学びが続き、

意見や考えを他者と共有し相互理解を図ることができた。そして Edmodo の使いやすさと楽しさ、他の学習者とオンラインで共に学ぶ環境が学生からの好意的な評価を得た。しかし、Edmodo が最大限活かされたか、またフィードバックの方法が十分だったかなど課題も残っている。

さらに今回の実践では授業外のインタラクティブな活動として Edmodo を利用したが、「書く」と「読む」に重きをおいた活動になってしまい、「話す」と「聞く」のスキルを伸ばす活動内容が一切入っていなかった。会話の授業にも関わらず宿題が「書く」に偏ってしまったので、今後音声ファイルや動画で発話するアクティビティなどを入れ、「話す」活動を取り入れていく予定である。また今回実践を行った学生には他者と意見を共有することに抵抗のある学習者はいなかったが「書きにくいと感じたことがある」と答えた学生は半数にのぼった。特にディスカッションテーマのようなセンシティブな内容であればなおさらである。今後他者と意見を共有したくないという学生が現れた時のための対応方法も決めておく必要がある。

本実践で浮かびあがった課題を再検討し、Edmodo の活用方法を見直し、授業外活動を改善していきたいと考える。

参考文献

Fukui, N. & Kawaguchi, S. (2015). ソーシャルネットワークキング Bebo を使った日本語 学習環境のデザインと協働学習促進の試み. *Electronic Journal of Foreign Language Teaching* 2015, Vol. 12, No. 1, pp. 115-134.

Ma'azi, H. & Janfeshan, K. (2018). The effect of Edmodo social learning network on Iranian EFL learners writing skill. *Cogent Education*, v5 n1 Article 1536312.

Mills, K. A., & Chandra, V. (2011). Microblogging as a Literacy Practice for Educational Communities. *Journal of Adolescent and Adult Literacy*, 55(1), 35-45.

Okumura, S. & Takasa, M. (2016). The Use of Edmodo to Enhance Second Language Learning among Japanese and American College Students, presented at International Conference of Japanese Language Education. Bali.

Wenger, E. and Snyder, W. M. (2000). Communities of Practice: The organizational frontier. *Harvard Business Review*, (January/February), pp.139-145.